

発行者
社会福祉法人楽寿会
特別養護老人ホーム
楽寿荘
四倉町上仁井田字横川 67
TEL (0246)32-6381

ハッピー&スマイル



震災特集号



「ありがとうに支えられて30年」

から



『31年へのバトンタッチ』

30周年事業実行委員長 小野哲男
本来であれば広報誌は4月に発行の予定でしたが、3月11日の東日本大震災の影響等もあり、3ヶ月遅れの7月発行となりました。

昨年度は、特別養護老人ホーム楽寿荘30周年にあたり、年間を通して様々な事業を展開してきました。

その目的は、30年宣言で述べましたように、「利用者の立場を最優先に考え、新たな気持ちで再出発する。」と言う事であり、また、利用者の対応に際し、職員は常に情報の共有を図ることが大変大事だと再認識をいたしました。

事業の内容としては、シンボルマークとキャッチコピーの設定に始まり、4月のオープニングセレモニー、6月の記念植樹祭、夏祭り、クリスマス会と事業を展開し、30年の特別記念誌も発行しました。

そのような中で、職員と利用者の信頼関係は、より一層深まり、これらの事業を通して情報の共有化もスムーズにとれていったと思われまます。

さて、31年目に入りました。私たちは、昨年実施した多くの事業を糧にして、介護の原点を見つめ直し、利用者サイドに立った考え方を常に心に置きながら、日々業務に従事しております。

新たなスタートを切ったばかりですが、これから更なる伝統を築こうとしています。利用者最優先を第一に、より一層信頼され、愛される施設、職員を目指して頑張りたいと思っております。

「ハッピースマイル楽寿荘」へ



楽寿荘夏祭りのお知らせ

今年も例年通り楽寿荘夏祭りを8月27日(土)に開催いたします。
震災に負けない楽しい祭りを予定しておりますので、ぜひ皆様お揃いでご来荘下さい。
職員一同、心よりお待ちしております。
尚、今年は駐車場が狭いのでご了承願いたします。

担当

6381 (代表)
中無休)
16)32-6387

16)32-6381

0246)32 - 6383
8:00~17:00)

美味しい食事は笑顔の源! (^ ^)!



楽食の翌月、表の芝生の庭で五月二十六日(木)には『青空昼食会』を行いました。
晴天に恵まれた新緑の中、職員による、楽しいショータイムの後、彩り鮮やかな美味しい青空弁当が配膳され、楽しいランチタイムが始まりました。「おねーちゃん、いつもおいしいものありがとう!」と栄養士さんに感謝の言葉を述べる利用者の姿もあり、心も身体も開放感にひたり、楽寿荘の絆を強く感じたひと時でした。

青空昼食会



四月二十一日(木)、震災から四十日...
楽寿荘では満開の桜の開花に合わせて、例年通り、お花見を行いました。放射能の影響を考慮し、室内での開催となりましたが、以前と変わらない御馳走が並び、即席屋台のたこ焼き屋さんも出店し、笑顔あふれるひと時が戻ってきました。

お花見



楽食



お花見から一週間後の四月二十八日(木)には、『楽食の日』を楽しみました。久しぶりのお刺身に感激し、幸せな時間でした。

主任から一言 ~西棟介護主任 荻洋子~

今年23年度は、若さあふれる新人職員女子が1名西棟に入りました。よき先輩の教えを、いつも明るい笑顔で「ハイ!」とこたえ、素直で皆に可愛がられています。この7月より一人立ちデビューをします。

西棟男性職員3名は、利用者一人ひとりが抱えている障害度を良く観察し、安全に生活できる様、オリジナルの自具を作成するなど、活躍中です。

女性職員は、いつも利用者の笑顔が見られるよう、きめ細かなコミュニケーションを図っています。

32名の利用者が安心して、毎日笑顔になれる生活の場にする為に、10名のスタッフが頑張っています。

大震災 原発関連の動き

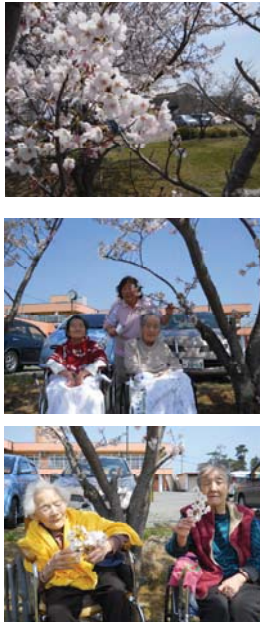
- *3/11**
 - ・三陸沖を震源とするM9.0の地震発生。
 - ・15:35 仁井田川の水位が急激に低下その後津波到達する。
 - ・津波の影響により仁井田川逆流し楽寿荘の周囲水没。
 - ・近隣の民家より避難者ありデイサービスに宿泊する。
- *3/12**
 - ・第1原発1号機水素爆発。
 - ・第2原発周辺半径10km圏内避難指示。
 - ・第1原発周辺半径20km圏内避難指示。
- *3/13**
 - ・原発事故に伴う放射能汚染が大きな問題になる。
 - ・情報錯綜し四倉地区避難近しとの情報あり支所に確認に行き避難指示は出ていない事を確認。
 - ・理事長を中心に楽寿荘の現状と対策を協議
- *3/14**
 - ・第1原発3号機水素爆発。
 - ・仁井田川からポンプ取水しトイレの水確保
- *3/15**
 - ・第1原発4号機建屋火災。
 - ・第1原発周辺半径20~30km圏内屋内退避指示。
- *3/16~3/17**
 - ・タロー薬局より薬確保の確認。
 - ・佐藤施設長がTBSの生放送の電話取材を受ける。
- *3/18**
 - ・四倉地区を含め市民の避難ピークに達するが楽寿荘は避難指示が出るまで現状を維持していくことを確認。
 - ・避難指示に備え避難出来るよう準備体制に入る。
 - ・NHKで取材を受け、放送直後から救援、支援の電話が鳴り始める。
- *3/19**
 - ・ボイラー再稼働、利用者の夜間の暖房確保。
- *3/21**
 - ・社協給水車を借り上げ洗濯開始。
- *3/22**
 - ・ウロコGSよりガソリン確保。
 - ・リネン回収業者再開
 - ・インターネット回線復旧。
- *3/27**
 - ・水道復旧。
- *4/11**
 - ・いわき市直下型地震、震度5強。以後、余震頻発



“東日本大震災”

未曾有の災害の中、その時楽寿荘は！！？

3・27～現在 震災を乗り越え



ストップしていたライフラインも無事に復旧し、次第に元の生活に戻っていく。そして・・・、楽寿荘にも春がやってきた！

皆々様からの数々のご支援ご協力誠にありがとうございました。
お陰様で楽寿荘の私たちはいつもの元気な暮らしを取り戻すことができました。

施設長 佐藤英介

3・18～3・26 楽寿荘の底力発揮



楽寿荘職員が川から水を汲み運ぶ

楽寿荘職員が一致団結し、川の水を汲みトイレの水として使い、社協の協力で飲料水、洗濯水の確保ができるなど、利用者の生活を支える。



ポリ・紙容器も少なくなり食品トレイで食事を提供、笑顔で食事をする利用者の様子

備蓄が底を尽きそうになったが、なんとか1日3食の食事は提供できていた。



全国から届いた支援物資の数々。一時は置ききれず、荘内の廊下まであふれていた

施設長による全国放送のTVでの電話出演により、たくさんの方の支援物資が全国から届く。

3・12～3・17 ライフラインの停止



飲料水を確保した写真と洗濯物の山

ライフラインが停止していたが利用者の家族の協力により飲料水の確保は出来たが、洗濯までは出来ず。



震災後の楽寿荘内の様子

震災後、南棟からの利用者が中棟へ移動し、いつでも避難できるように準備を行っていた。



食事の写真、食器は洗う事が出来ず、ポリ・紙容器を使用していた。

ライフラインがストップしても備蓄により1日3食は欠かさず提供することが出来た。

3・11、14:46 地震発生



利用者を屋上へ避難誘導する

震度6弱の大地震発生！大津波警報発令により職員総出で利用者を屋上へ避難させる。



津波発生時の楽寿荘から撮影

津波到達！しかし！楽寿荘は津波による被害は少なかった。



津波の被害にあった楽寿荘周辺の写真
松林に突っ込んでいた旅館バス（右上）

ただ、津波による爪あととはしっかり残っていた。